Jヴィレッジをスポボラの聖地に!

Sports Volunteer Festival

— スポーツボランティアフェスティバル —

2021 in Fukushima 開催

2021年7月、世界中のアスリートが日本に集いスポーツの素晴らしさで人々を魅了した東京2020オリンピック・パラリンピックが開催された。これまでの歴史上、類をみない無観客での開催という状況のなか、大会が成功のうちに幕を下ろすことができた背景には、多くのスタッフをはじめ一般から参加したボランティアの存在があったからに他ならない。

規模の大小、地域に関わらずスポーツイベントの成功に欠かせないスポーツボランティアの周知や育成を目的に、NPO法人うつくしまスポーツルーターズが中心となり、聖火リレースタートの地となったJヴィレッジにおいて「Jヴィレッジをスポーツボランティアの聖地に」をコンセプトに、スポーツボランティア研修やスポーツイベントで創造的ボランティア活動を実践した。

考える 12/11（土）

リーダーシップを"引き出す"方法
～できるリーダーは仲間を活かす～

仲間とストーリーを共有し、お互いが同じ目標を目指す

12月11日に開催された日本スポーツボランティアネットワーク公開講座「リーダーシップを"引き出す"方法～できるリーダーは仲間を活かす～」。講座は2部構成で行われ、会場とオンライン配信により約500名が受講した。

開催に際し、主催者を代表してNPO法人日本スポーツボランティアネットワーク（以下JSVN）の渡邉一利理事長が「リーダーシップの考え方は人それぞれある。この公開講座でコミュニティ・オーガナイジングのメソッドを学びながら仲間の主体性を育て、協働するために必要なリーダーの姿勢や行動、理論を学んでほしい」と述べた。

第1部は「リーダーシップを引き出す"コミュニティ・オーガナイジング"とは」と題し、NPO法人コミュニティ・オーガナイジング・ジャパン代表理事の安谷屋貴子氏が、メソッドを取り入れた私立大学のボート部の事例を挙げ「コミュニティ・オーガナイジングは、ある目的に向かって全員でストーリーを共有し、自分たちでいま何が必要かということを考えて問題解決をしていくことがいい結果につながり、個人のリーダーシップが発揮される」と語った。

NPO法人うつくしまスポーツルーターズ事務局長の齋藤道子氏は「子どもの頃に地元のプロ野球チームが優勝して、大人も子どもも関係なく喜びに沸いたとき、スポーツで地域がひとつになれる素晴らしさを学んだことが今に結びついている」と自らのストーリーを語り、復興にスポーツやスポーツボランティアが果たす「可能性」に期待を込めた。

続く第2部では、安谷屋氏と齋藤氏にJSVNスポーツボランティア・上級リーダーの澤田良樹氏を加え、パネルディスカッションが行われた。澤田氏は「スポーツボランティアは認識的理解、感情的理解を合わせて相手の行動を引き出す、いわゆる思いの共有が重要なのではないか。組織のような上下関係ではなく、誰もが平等の中で同じ目的に向かってそれぞれが仲間を導いていくことが成功につながっていく」と話し、参加者も興味深く聞き入っていた。

NPO法人コミュニティ・オーガナイジング・ジャパン 代表理事
安谷屋 貴子氏

NPO法人うつくしまスポーツルーターズ 事務局長
齋藤 道子氏

JSVN スポーツボランティア・上級リーダー
澤田 良樹氏

学ぶ 11/3（祝・水）

スポーツボランティア研修会
JSVNスポーツボランティア研修会 ～スポーツボランティアの楽しみ方～

スポーツボランティアを知ることが参加への第一歩

福島のスポーツシーンを支える「スポーツボランティア」を育成する段階的なプログラムの基礎となる「スポーツボランティア研修会」。この日はスポーツボランティア活動のやりがいや楽しみ方を知る初心者向けプログラムとして、スポーツボランティアの定義や分類、活動などの座学、コミュニケーションスキル向上のためのグループワークが行われた。

この研修会を受講後、希望者には「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」「スポーツボランティア・上級リーダー養成研修会」「スポーツボランティア・コーディネーター養成研修会」と続くプログラムが用意され、受講後のレポート提出など評価基準を満たせばライセンス認定もある。

参加者からは「有意義な研修会でとてもよかった」「今後スポーツボランティアとしてイベントに参加したい」などの感想が聞かれた。

スポーツボランティア研修会は今後も継続的に実施される。

共有する 9/6（月）

プレイベント

スポボラ・オンラインイベント
～復興五輪のミライを照らす～

支え合い、喜びを分かち合う ボランティアとアスリートは一心同体

スポーツボランティアフェスティバル2021 in Fukushimaのプレイベントである「スポボラ・オンラインイベント～復興五輪のミライを照らす～」は、トークゲストに東京2020組織委員会スタッフであり、元2019ラグビーW杯スポーツボランティア担当スタッフの神野幹也氏、東京2020宮城県CityCastで仙台市のスポーツボランティア団体「市民スポーツボランティアSV2004」代表の泉田和雄氏、東京2020FieldCastで、東京2020オリンピック・パラリンピックのボランティア約2000人が参加するオンライングループ主宰の澤田健太郎氏の3名を招き、オンライン配信での開催となった。

トークの中で神野氏は「東京2020オリンピック・パラリンピックでは、ボランティアが応援に来ることができなかった各国の皆さんの代わりに選手たちを励まし応援した。運営のサポートだけでなく選手たちに熱い思いを伝える役目も果たした」と振り返った。

泉田氏は2002年のサッカーW杯日韓大会において仙台市がイタリアのホストタウンとなった経験も踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けてのボランティア研修について触れた。

また澤田氏は「ボランティアは一方的に奉仕するイメージがあるがお互い支え合うもの。今回のオリンピック・パラリンピックでの経験を生かし、これからのスポーツや社会を変えていくきっかけになればうれしい」と述べた。

最後に、郡山市出身で元ラグビー日本代表の大野均氏から「今回のオリンピック・パラリンピックが無事に終えられたのはスポーツボランティアの方々の力があったから。アスリートが安心してプレイに集中できるのはスポーツボランティアの方々のおかげ。スポーツも災害もボランティアの人々の力が必要不可欠。これからもみんなで力を合わせて日本を元気にしていきましょう」と締めくくった。

〈トークゲスト〉
神野　幹也氏（左上）
泉田　和雄氏（右上）
澤田健太郎氏（左下）

元ラグビー日本代表の大野均氏からのメッセージ

こちらで
見逃し配信を
ご視聴できます

Jヴィレッジをスポボラの聖地に!

Sports Volunteer Festival

— スポーツボランティアフェスティバル —

2021 in Fukushima 開催

繋がる 12/12（日）

スポーツボランティア感謝祭

Jヴィレッジをボランティアの聖地へ 支え合いの輪は無限に広がる

12月12日、前日に行われた公開講座に続き「スポーツボランティアフェスティバル2021 in Fukushima スポーツボランティア感謝祭」が開かれた。開催にあたりNPO法人日本スポーツボランティアアソシエーション理事長でオリンピアンでもある宇佐美彰朗氏が「東京2020オリンピック・パラリンピックの成功は、ひとえにスポーツボランティアの皆さんの貢献があってこそ。今後、日本のスポーツが文化として発展するためにはスポーツボランティアの支えが必要」と述べた。

感謝祭では元サッカー日本代表の巻誠一郎氏、本県出身のタレントなすび氏、NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク スポーツボランティア・上級リーダーの及川登代子氏らのトークショーが行われた。巻氏は「サッカーはもとよりプロスポーツにおいてアスリートとボランティアは切っても切れない関係。現役時代、公式戦や代表戦においてボランティアの皆さんの活動や励ましの言葉は我々にとって本当に支えになった。皆さんがいたからこそがんばれた」と当時の胸の内を披露。さらに出身でもある熊本県が震災に見舞われたときも「隣近所の人に手を差し伸べるように、考えるより行動に移っていた」というエピソードも語った。またなすび氏も東日本大震災後、ふるさと福島の復興再生を祈願し四国お遍路を結願したことや祈念を込めたエベレスト登山の挑戦、2015年から2016年の冬、東北復興を願い、青森県から福島県までの東北海岸に沿って900㎞にもおよぶ「みちのく潮風トレイル」を徒歩で踏破した様子など、当時の様子を話した。そのなかで「励ますつもりが励まされた経験を生かせるようにボランティアを続けていきたい。機会があればスポーツボランティアにも関わることができれば」と思いを語った。

2002サッカー日韓W杯を機に、スポーツボランティア活動を続けるスポーツボランティア界の草分け的存在である及川氏は「猪苗代町で開催されたフリースタイルスキー世界選手権のボランティアを経験したが、その時に知り合ったボランティアの方々とは今もつながっている。ボランティアは一人で参加しても多くの方々とつながり、支え合う輪が拡がっていく。ボランティア参加は敷居が高いものではないので、興味があればぜひ参加してほしい」と話した。

3氏によるトークショーの他に福島と防災に関するクイズ、浜通りのグルメ紹介、県内の学生合同よさこいチーム「福島学生"源種"～seed～」の演舞、地元楢葉町の和太鼓団体「ならは天神太鼓うしお会」による太鼓の演奏が披露された。また最後に来場者全員で東京五輪音頭を踊るなど終幕まで盛り上がりを見せた。

福島と防災に関するクイズに挑む

Jヴィレッジに集まったスポーツボランティア、聴講者と出演者

スポーツボランティアについて語る（左から）及川氏、巻氏、なすび氏

こちらで
見逃し配信を
ご視聴できます

東京五輪音頭を来場者全員で踊る

「ならは天神太鼓うしお会」による太鼓の演奏

「福島学生"源種"～seed～」の演舞

出演者プロフィール

巻 誠一郎氏

大学卒業後、17年間プロサッカー選手として活躍する傍ら、出身地である地元熊本で少年サッカースクール「カベッサ熊本」開校を機に、株式会社フットアスを設立。
その他、現役、引退問わずアスリート全般の社会貢献活動事業を立ち上げるなど、慈善活動、各種事業や様々な分野でリーダーシップを取り、幅広い経験を積み重ねている。

なすび氏

俳優。日本テレビバラエティー番組「電波少年的懸賞生活」にて日本・韓国を舞台に1998年～1999年の1年3ヶ月間を懸賞のみで生活しブレイク。2011年8月には東日本大震災で被災した故郷福島の復興再生を祈願し四国お遍路を結願、以降も故郷への祈念を込めエベレスト登山に挑戦するも、2013年頂上直前100メートルにて下山。2016年4月に4度目の挑戦で登頂を果たす。

及川 登代子氏

JSVNスポーツボランティア・上級リーダー
2002サッカー日韓W杯を機に、スポーツボランティア活動を続けるスポボラ界の草分け的存在。
福島県での活動も多数。
17歳から現在まで続けるスキューバダイビングが趣味。35年貿易会社の仕事を通じて身につけた語学力を生かし、ホストファミリーなども積極的に行っている。

〈MC〉あいな氏

FMいわき パーソナリティ。
福島県いわき市出身。
FMいわき　毎月第2土曜日「サタデープラザ　わがまち発信隊」（9:00～12:00 生放送）、その他収録番組を担当。

自分にできることをやる。それがボランティア

巻誠一郎氏

自分の中では「支援活動＝ボランティア」という意識はなく、家族や近所の人が困っていたら手を差し伸べるくらいの感覚です。地元熊本の大地震以降、自分が行ってきたことが結果として"ボランティア"になっているのかなと思う。

障がい者支援や災害支援、もちろんスポーツに関わるものなどボランティアは様々あるが、共通していることは「できることをやればいい」ということ。現役時代フォワードというポジションで自分にしかできない他の選手を助けるプレーを意識していたし、逆に味方に助けてもらうこともあった。でもこれは当たり前のことで、同じ目的のために自分たちそれぞれができることをする。それがお互いを勇気づけ励まし合うことにつながる。東京2020オリンピック・パラリンピックでは、ボランティアとして参加する予定だった皆さんの活躍の場がなくなってしまったが、その存在は選手たちにとってとても心強いものだったのではないか。

ボランティアは難しいものではなく「自分ができることを当たり前にやる」。その気持ちが大事だと思う。

ボランティアは感謝の気持ちの繰り返し

なすび氏

スポーツボランティア、災害ボランティア。言葉は違えども「困っている時はお互いさま」という気持ちは同じ。

2011年の東日本大震災という未曾有の体験があり、ふるさとの人たちのために自分に何ができるだろうかと悩んだ答えが現地へ行くことやエベレスト登頂にチャレンジすることだった。自分が何か行動することで皆さんが少しでも元気に、笑顔になってもらえたらと始めた活動だったものの、逆に皆さんから「来てくれてありがとう」「がんばって」と励まされてきた。この言葉をいただいたおかげで、次のところへ行ってもがんばることができた。

こうした経験からボランティアは「感謝の繰り返し」なんだと感じるようになった。手助けをして感謝をうけとった人が、今度は手助けをしてくれた人に感謝を渡す。まさに感謝の気持ちの繰り返し。

ボランティアは「よし、やるぞ！」と意気込むより、自分ができることを一生懸命やることが大切だと思う。自分ができなくても他の人がやってくれる。無理に背伸びをする必要はない。自分のペースでやることが一番大事。

〈主催〉NPO法人うつくしまスポーツルーターズ　〈共催〉NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク　〈後援〉福島県、福島県教育委員会、相馬市、田村市、川俣町、広野町、楢葉町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、新地町

NPO法人うつくしまスポーツルーターズ
事務局
福島県福島市大森字本町14
TEL・FAX:024-546-9875
URL:http://www.rooters.jp/
EMAIL:info@rooters.jp

Sports Volunteer Festival 2021 in Fukushima 公式HP
URL:https://sports-volunteer-fukushima.com/